

監督・撮影 河邑厚徳

フォト・ドキュメンタリー



Pencil and Gun

鉛筆と銃

長倉洋海の眸^め

永遠の時を駆ける

<https://www.enpitsutojyuu.com>



写真家は過去にさかのぼり未来を見通すシャーマン。
鷹の眼で世界を見つめ 愛をこめて人間を写してきた。
運命的な出会いにも恵まれた。

文明の十字路口アフガニスタンでソ連と戦ったマスードと仲間たち。

その死をのりこえ今も続ける山の学校の記録。

歴史は、流れつづける大河である。長倉はその岸辺に立ち

森羅万象に眸をそむけることなくレンズを向けた。

人類の業を見たのか、希望を見つけたのか？



「もう少し早く生まれていたらベトナム戦争に飛びこんで決定的瞬間を撮ることも出来たかもしれないけど、遅れてきた僕は、自分しか撮れない写真を探した。それが今につながっている」



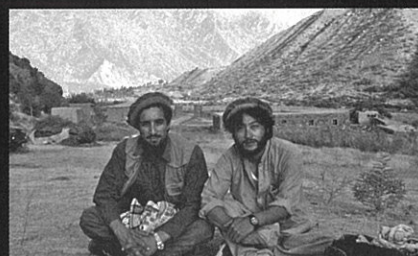
長倉 洋海

(ながくらひろみ)

1952年、北海道釧路生まれ。写真家。通信社勤務を経て1980年よりフリーランスとなり世界の片隅に取り残されたような国々を取材。地を這うようにシベリア・アマゾン・エルサルバドル・アフリカ・シルクロードなどを撮影。なかでもアフガニスタン抵抗運動の指導者マスードの戦い、北部パンシール渓谷の山の学校の子どもたちを捉えた作品群は高く評価され、第12回土門拳賞、講談社出版文化賞などを受賞している。



「自分の目の前の人間の心に入っていくことを核にして写真を撮っていくというのが僕のスタイルです。先輩からは、もっと茫洋とした人間、人はどこからきてどこへ行くのかを考えるような大きな人間になれと言われました。その時はなにくそと思ったが、今思うと深い意味を持っていたんだと気づきました」



監督・撮影 河邑厚徳

製作・著作 アフガニスタン山の学校支援の会
ルミエール・プラス
配給宣伝 アルミード



9/12(火)～24(日) ※9/19 休館

平日 13:30/16:00/18:50

土日祝 13:00/15:30/18:00

※9/17.23.24の13:00/15:30の回は休映

※トークイベントはアフガニスタン山の学校支援の会や長倉洋海、作品のHPをご覧ください。詳細が決まり次第、掲載いたします。

恵比寿ガーデンプレイス内

東京都写真美術館ホール

<https://topmuseum.jp> 03-3280-0099